

第3回全国防災まちづくりフォーラム 活動発表会 発表者資料

※主催 内閣府、京都市、板硝子協会、(社)日本損害保険協会、防災推進協議会

平成19年8月25日(土) 10:00~12:40、15:20~16:00

京都市アバンティホール

《 次 第 概 略 》

1. 挨拶及びルール説明 [10:00~10:20]
 - ・主催者挨拶
 - ・発表会ルール説明
2. 活動発表 [10:20~12:40]
 - ・発表団体数：京都府内6組、京都府外6組
3. 表彰式 [15:20~16:00]

※ホワイトにて展示 (10:00~16:00)

活動発表会参加者

《発表団体》※発表順

西大和6自治会連絡会	1
柏野安心安全まちづくり推進協議会	3
名古屋市中村区日吉学区連絡協議会	5
特定非営利活動法人 春日住民福祉協議会	6
若葉台自主防災会	9
光徳地区、大内地区、七条第三地区防災支援ネットワーク	11
多摩センター地区連絡協議会	14
京都駅周辺防災ネットワーク協議会	16
滋賀県立彦根工業高等学校	18
関西木造住文化研究会	20
高山市上三之町町並保存会	22
清水寺警備団	24

参加組織名	西大和 6 自治会連絡会
参加代表者 氏名	辻 誠一
発表概要	<p>奈良県上牧町の西大和ニュータウンにある 6 つの自治会から構成される西大和 6 自治会連絡会は、地域の安全・安心を目指し、自主防犯・防災活動を実施している。自主防災について、住民アンケートをもとに地震災害対策の 4 年前から取組み、災害救出用資機材を備蓄し、毎年防災、防火、救命訓練を実施している。また、独自の「地震災害対策マニュアル」を作成した。</p> <p>そのうち、1 構成員である桜ヶ丘 2 丁目自治会は 1 昨年より「子供サバイバルキャンプ」を実施し、オーバーナイトで模擬避難所体験や防災に関する基礎知識を学んでいる。</p>

活動概要

活動プロジェクト名称	
西大和 6 自治会連絡会	
活動対象地域	
6 つの自治会 片岡台 1, 2, 3 丁目自治会、桜ヶ丘 1, 2, 3 丁目自治会	
活動の開始時期（おおむねの年月日でも可）	
西暦 2004 年 4 月 日	
活動団体名	
名称	西大和 6 自治会連絡会 (桜ヶ丘 2 丁目自治会)
フリガナ	ニシヤマトロクジチカイレンラクカイ (サクラガオカニチョーメジチカイ)
活動団体設立時期（おおむねの年月日でも可）	
西暦 2002 年 4 月 日	
活動の趣旨・目的	
<p>西大和 6 自治会連絡会は、自主防災活動が災害・被害からの犠牲を最小にとどめるという経験則を基に、啓蒙活動や関係諸機関との協力を得て、訓練活動を継続的に行い、また災害救出用資機材を順次備蓄することにより、地域住民の危機管理に対する意識改革を図り、地域の安全・安心感を提供している。また、地震災害時に自治会は何ができるか、何をすべきかを議論して、独自の「地震災害対策マニュアル」を作成した。</p>	

とりわけ、桜ヶ丘 2 丁目自治会は、子供たちに楽しく防災知識を学んでもらおうと、擬似避難訓練を町指定の避難所であるグラウンドで、電気、水道、電話、ガスもないという想定のもと、炊き出しや宿泊体験、また消火訓練も行っている。

最近の具体的な活動内容（活動記録）（200～300 字程度）

- 年間行事として、
- 防災センター研修……………新年度の自治会役員を対象
 - 防災マニュアル勉強会……………新年度の自治会役員・委員を対象
 - 防犯防災懇談会……………地域の警察・学校・PTA・民生等関係諸団体と
 - 防災センター研修……………シルバークラブや子供会と
 - サバイバルキャンプ……………（現在は桜ヶ丘 2 丁目自治会単独活動）
 - 震災対策講演会・実技講習会・外部講師や内部経験者による講演・資機材取り扱い訓練
 - 初期消火訓練……………消防署・消防団の指導で訓練や消火器の詰め替え・販売
 - 救急救命講習会……………消防署の指導で訓練
 - 防災マニュアルの見直し…平成 16 年作成のものが陳腐化しないように毎年見直す

活動成果

1. 防災に関する住民の知識・意識の浸透
2. 関係諸機関（県の防災統括室、町役場、消防署、警察署、学校、消防団等）との意思の疎通
3. 国や県等からの評価
（財）自治総合センターの「地域安全安心ステーション整備事業」として助成金、住宅都市整備公団より助成金、奈良県より知事表彰、総務省消防庁の「防災まちづくり大賞」の優良事例に掲載

課題

1. 継続性を持たす
自治会役員は 10 年から 15 年の周期で廻ってくる。1 順する最低 10 年は継続させ、全自治会員に浸透させる。
2. マンネリ化しないよう
自治会員は毎年変わるが、事務局は継続性を維持するため、固定されている。そのためマンネリ感はぬぐえない。絶えず新鮮な気持ちを持って企画・実施・反省する。
3. 活動行事への動員
動員確保のため、遊びごころ・イベント性を持たせ、楽しく活動する。

参加組織名	柏野安心安全まちづくり推進協議会
参加代表者 氏名	会長 中嶋 重男
発表概要	安心安全ネットワーク形成事業について 平成17年度当学区がモデル地区として発足して以後3年目の現在 に至る進捗状況と今後の具体的取組について 他

活動概要

活動プロジェクト名称（活動団体名と同じでも可）	
柏野安心安全まちづくり推進協議会	
活動対象地域	
柏野学区全域	
活動の開始時期（おおむねの年月日でも可）	
西暦 2005 年 4 月 1 日	
活動団体名	
名称	柏野安心安全まちづくり推進協議会
フリガナ	カシワノアンシンアンゼンマチヅクリスイシンキョウギカイ
活動団体設立時期	
西暦 2005 年 4 月 1 日	

活動の趣旨・目的
学区内日々の安心安全まちづくりの推進をキーワードに各諸団体（20 組織）が年間行事及事業活動の情報を提供しあい、学区民全員が顔の見える集りを啓蒙して災害時に備え、減災を心掛けていく事が大切である認識を柏野安心安全ネットワークを形成する事を目的とする。
最近の具体的な活動内容（活動記録）
柏野安心安全まちづくり推進協議会が主催する事業としては、協議会が発足して平成17年度より地域ネットワークを啓蒙する為、諸団体学区民と共に柏野親睦盆踊り大会を約30年ぶりに復活させる事が出来ました後第2回を平成18年にそして本年度は8月19日に第3回の柏野親睦盆踊り大会を実施する。 その他活動の目的を達成する為に、年間の諸行事・事業等に学区民に参加、協力を推進している。
活動成果

一歩ずつではありますが、学区民が向イ三軒両隣のおつきあいはもとより、全員が事業や行事に参加する事で顔の見えるネットワークの必要性がご理解下さるようになってきていると思われます。

課題

学区民が柏野安心安全まちづくり推進に対して、参加して下さる為に持続と継続を常にアピールしていく事だと思ふ。

参加組織名	日吉学区連絡協議会
参加代表者 氏名	後藤 弘康
発表概要	「ついに大地震が襲って来た」 (避難用モンゴル製テントとおたすけカード) 避難用モンゴル製テント及びおたすけカードの活用を寸劇で8人 ほどが演じる。

活動概要

活動プロジェクト名称	
日吉学区連絡協議会	
活動対象地域	
名古屋市中村区日吉学区内	
活動の開始時期	
西暦 2000 年 4 月 1 日	
活動団体名	
名称	日吉学区連絡協議会
フリガナ	ヒヨシガックレンラクキョウギカイ
活動団体設立時期	
西暦 1940 年 4 月 1 日	
活動の趣旨・目的	
学区民の災害意識の向上と万一の場合 死者0 火災0 を目指した取り組み	
最近の具体的な活動内容（活動記録）	
防災マップ作り、防災喫茶、一泊避難体験、防災グッズと防災の日、 運動会、中村区民まつりでの安価での販売。防災の日に学区独自での各種の防 災訓練。	
活動成果	
17年度 消防科学総合センター理事長賞受賞 18年度 全国防災フェア審査員特別賞受賞	
課題	
別に無し	

参加組織名	特定非営利活動法人 春日住民福祉協議会
参加代表者 氏名	高瀬 博章
発表概要	春日学区では、「自治」「福祉」「防災」を“三位一体”として地域活動を進めている。『住み慣れた地域で、いつまでも暮らし続けられる地域づくり』を目標に、住民主導による多種多様な取り組みを進めている。 近年、安心・安全の地域づくりや災害時の要援護者支援などが国を挙げた課題となっている中で、地域福祉活動や地域防災活動を結びつけて取り組んでいる春日の活動事例を紹介する。

活動概要

活動プロジェクト名称	
特定非営利活動法人 春日住民福祉協議会	
活動対象地域	
京都市 上京区 春日地域	
活動の開始時期	
西暦 1982 年 4 月 1 日	
活動団体名	
名称	特定非営利活動法人 春日住民福祉協議会
フリガナ	トクテイヒエイリカツドウハウジン カスガジュウミンフクシキョウギカイ
活動団体設立時期（おおむねの年月日でも可）	
西暦 1982 年 4 月 1 日	
活動の趣旨・目的	
春日学区では、自治活動をベースに防災活動、福祉活動が相乗効果を成して発展してきた。『住み慣れた地域で、いつまでも暮らし続けられる地域づくり』を目標に、住民主導により関係機関との連携の中で活動を行うことを基本的な考え方としている。 また、「元気な人」「外出が苦手な人」「虚弱な人」「支えが必要な人」というように、『人それぞれに応じた活動』を用意することを基本においている。 そして「春日だより」「福祉防災マップ」「春日福祉台帳」「防災訪問」「防災教室」「学区総合防災訓練」「町内会での防災集会、防災行動計画づくり」など、二重・三重に見守りと支え合いの活動を繰り広げることで、支えが必要な人ほど手厚い対策をはかるようにしている。	
最近の具体的な活動内容（活動記録）	

(1)「福祉防災マップ」は1983(昭和58)年に初版を発行し、以降2ヶ年に1回改訂版を作成している。また、「春日福祉台帳」は1980年(昭和55)年から毎年更新しながら、要支援者台帳として活用している。「防災教室」「防災訪問」などの見守り活動も含め、地域の活動を通じて、住民どうしの関係づくりを進めるとともに、データとしても把握できるようにしている。

(2)「学区総合防災訓練」は1982(昭和57)年から取り組み、最近はトリアージによる救護訓練、図上訓練など、より一層実践的なプログラムを導入している。また2005(平成17)年からは、水害対策(鴨川の氾濫に備えて)にも取り組むようにしている。

(3)「町内会での防災集会、防災行動計画づくり」は、2003(平成15)年から進め、すでに全21ヵ町で完了している。町内会として独自に避難時の持出用袋やヘルメットを整備するなどの防災対策が生まれてきている。

活動成果

(1) 地域の見守り体制づくり

福祉防災マップ、台帳、訪問活動など防災に視点をあてた活動だけでなく、さまざまな地域活動を通じて、災害時の「要援護者」を含め、地域のつながりを活かした見守り体制ができてきた。

(2) 町内会の防災集会、防災行動計画づくり

全住民参加型で、実効性のある防災・災害対策活動の充実につながっている。町内会の多彩な活動を交流し合うことで、互いに刺激し合い、一層の活動の浸透を見せている。

(3) 防災教室・防災訪問チェック表による自助の意識づくり

長年、継続して取り組むことによって、高齢者やボランティアに防災意識が根つき、自助・共助の意識が高まってきた。

(4) 実践的な学区総合防災訓練の実施

単なるイベントに終わらせず、実際に起こりうる被害を想定して、対処の仕方を住民自ら検討し話し合うことで防護策の充実につながっている。

課題

防災活動の重要性や見守り・安否確認体制づくりの必要性が強調されているが、地域の活動は余り進んでいない。

この問題を解決していくためには、

①行政は地域の自発的な活動待ちにならず、具体的な方法を示しながら、地域に対し積極的に働きかけていくことが大事である。

②行政の縦割りが、防災活動の面でも問題になっている。区行政・福祉・消防など連携体制をとっていくべきである。

③地域の防災活動を発展させていくうえで、自主防災会どうしの情報交換や連携する機会をつくっていくことが必要。春日学区が属する上京区では、自主防災会の連合会を設置し、互いの活動の発表会を行ったり、合同の防災訓練も長年続けるなどして、全体の底上げを進めていっている。

参加組織名	若葉台自主防災会
参加代表者 氏名	井口 恒明
発表概要	<p>アイディア一杯の自主防災活動を紹介</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 消火器収納箱に防犯ベルとホイッスルを設置し、扉を開けると大音量のブザーが鳴り火災、子供や女性を狙った犯罪に遭遇したときに非常事態を近隣者に周知 2 夏休みに開催している子供対象のラジオ体操のときに、子供たちに消火器収納箱がこども110番の家の代わりにすることを説明 3 夏まつりに防災福引を実施 4 年末の火の用心パトロールに親子づれが増加！

活動概要

活動プロジェクト名称	
若葉台自主防災会	
活動対象地域	
滋賀県大津市富士見学区及び若葉台自治会区域	
活動の開始時期	
西暦 2002年7月1日	
活動団体名	
名称	若葉台自主防災会
よみ	わかばだいじしゅぼうさいかい
活動団体設立時期	
西暦 2002年7月1日	
活動の趣旨・目的	
<p>平成17年3月に大津市防災マップが発行され、若葉台自治会区域は、急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険渓流に取り囲まれていることも判明したことから、より実践的な自主防災活動が住民自らの力により実施できるよう取組みを強化するために、防災委員を増やして防災委員会を毎月開催し、積極的に意見を出して様々な対策を行ってきた。</p> <p>自主防災会活動のモットーは、子供の安心安全をはじめ、家庭内事故対策、環境保全を含めた身近な生活に係る防災活動全般とし、わがまちの防災力を把握するために、各世帯から20項目にも及ぶアンケート調査を実施し、弱点を修正できるよう非自治会員にも活動の参加を呼びかけた幅広い活動を行っている。</p>	

<p>最近の細かい活動内容（活動記録）</p>
<p>毎月1回防災委員会を開催し、その会議で決定した事項を基に平成18年度は下記のような活動を実施し、着実に地域防災力と住民間同士の絆は向上している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新組長を対象とした防災講習会の実施 ② AED講習会2回実施 ③ 夏まつり実施時に防災用品の展示 ④ 京都市市民防災センターでの防災体験会 ⑤ 消火器・簡易消火具の共同購入による廉価斡旋 ⑥ 夏期夜間防犯パトロール及び年末防火パトロール ⑦ 消火器収納箱内に10型粉末消火器、ホイッスル及び防犯ブザーをセットし、50箇所を設置 ⑧ 防災タウンウォッチング
<p>活動成果</p>
<ul style="list-style-type: none"> 1 子供や若い世代の皆さんにも気軽に防災活動に参加できるよう工夫してきた結果、次世代の防災を担う親と子供たちの参加が増えてきた。 2 消火器を共同購入し、非自治会員にも廉価で斡旋をしていることや、災害時要援護者の把握に努めていることなどが口コミにより伝わり、自治会員が徐々に増える傾向にある。
<p>課題</p>
<p>地域内に賃貸の共同住宅が10棟以上存在し、終の棲家として考えていない住民の防災活動への参画を増やすことが一番の課題である。</p> <p>防災活動とは直接関係はないが、飼い犬の糞の未処理も課題の一つである。</p>

参加組織名	光徳地区、大内地区、七条第三地区防災支援ネットワーク
参加代表者 氏名	伊藤 道雄
発表概要	京都市下京区北西部の3自主防災会(光徳学区、大内学区及び七条第三学区)と2事業所(京都リサーチパーク(株)及び大阪ガス(株)京都事業所)が2000年1月「自主防災支援に関する覚書」を締結し、更に同年5月当該覚書を基盤として覚書を締結した当事者の他、当該地域3消防分団、下京区役所並びに下京消防署で構成する「光徳地区、大内地区、七条第三地区防災支援ネットワーク」を結成した。覚書及びネットワークの概要、8年間の取組み内容(地域、行政、事業所が連携した防災訓練、防災知識普及啓発事業など)を紹介する。

活動概要

活動プロジェクト名称	
光徳地区、大内地区、七条第三地区防災支援ネットワーク	
活動対象地域	
光徳学区	: 約 3,060 世帯、約 7,150 人
大内学区	: 約 1,900 世帯、約 4,450 人
七条第三学区	: 約 3,110 世帯、約 7,260 人
* 京都リサーチパークは光徳学区の南西部に位置し、南東部が大内学区、南西部が七条第三学区にそれぞれ隣接している。	
自主防災会	: 4 2 自主防災部
自主防災会	: 3 2 自主防災部
自主防災会	: 3 5 自主防災部
活動の開始時期	
西暦 2000年 5月12日	
活動団体名	
名称	光徳地区、大内地区、七条第三地区防災支援ネットワーク
よみ	こうとくちく、おおうちちく、しちじょうだいさんちくぼうさい しえんねっとわーく
活動団体設立時期	
西暦 2000年 5月12日	
活動の趣旨・目的	
京都市下京区北西部の3自主防災会(光徳学区、大内学区及び七条第三学区)と光徳学区南西部に立地する京都リサーチパーク(東地区:敷地1.7ha・7棟約4万8千㎡、西地区:敷地3.9ha・15棟約7万4千㎡)を管理運営する京都リサーチパーク(株)及び入居企業である大阪ガス(株)京都事業所が2000年1月に「自主防	

「災害支援に関する覚書」を締結した。

また、締結と同時に震災時等に付近住民が自由に活用できる防災器材を収納した格納庫を京都市リサーチパークの東西2箇所に設置した。

この覚書を基盤として2000年5月に下京消防団の3分団（光徳分団、大内分団及び七条第三分団）、下京区役所及び下京消防署を加えた自主防災会、事業所、消防団、行政によるネットワークを結成し、定期的に防災活動（防災訓練、防災講演会等）に取り組むことにより、覚書の実効性を高め、地域住民の防災行動力の向上、防災知識の普及と併せて構成団体相互の支援体制の充実・強化を図る。

最近の細かい活動内容（活動記録）

平成15年7月9日 住民、消防団員等約250名参加（西地区駐車場）
防災訓練

- * 救助・救出訓練（防災器材：バール、油圧ジャッキ、二つ折り担架等活用）
京都市リサーチパーク(株)自衛消防隊の発電機、投光器による照明活動
- * 応急手当訓練（防災器材：救急バッグ、三角巾、養生シート等活用）
- * 消火訓練（住民：消火器 消防団：小型動力ポンプ）

平成16年7月4日 住民、消防団員等約200名参加
（西地区ガスビル「パルホール」）

一時避難施設自主運営訓練及び普通救命講習
（普通救命講習：午後、希望者30名）

- * 避難住民受付・把握訓練
- * 一時避難場所提供・一時避難所自主運営訓練
- * 給食・給水訓練

平成17年7月3日 住民、消防団員等約150名参加（東地区アトリウム）
防災訓練

- * 初期消火訓練
- * 応急手当訓練
- * 防災器材（格納庫収納）取扱い訓練
- * 地震体験訓練

平成18年7月2日 住民、消防団員等約170名参加（西地区ガスビル「パルホール」）

防災講演

- * 「自分たちのまちは自分たちで守る ―地域の危機管理―」
講師：京都大学防災研究所 牧先生
- * 住宅用火災警報器について 下京消防署、ネットワーク事務局

平成19年7月1日 住民、消防団員等約180名参加
（西地区ガスビル「パルホール」）

- 防災講演
- * メインテーマ「地震で命を失わないために」
 - ① 大地震の被害予測 ―下京区の被害は？―
 - ② 木造住宅の耐震診断と耐震補強
 - ③ 家具の転倒防止対策

<p>活動成果</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災という切り口から地域（自主防災会及び消防団）と事業所の交流の機会が生まれ、事業所が地域の安全に果たす役割が相互に理解された。 ・ 自主防災会、事業所、消防団、行政（区役所・消防署）という異なる組織の相互理解と協力が、地域防災に重要であることが確認された。 ・ 防災器材格納庫及び収納器材の存在及び活用方法等が地域に周知された。 ・ 「自主防災支援に関する覚書」の内容を定期的かつ具体的に実施することにより、災害時における支援が円滑に行える確信が生まれつつある。 ・ 行政が実施する防災事業と同様内容であっても、地域住民が参加し易い地元で行うことで、より効果が得られる。
<p>課題</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災、減災に即効性のある方策は無く、地道に継続するという不断の努力が必要である。しかし、事業の手法・内容などはある程度限られており、陳腐化しないようにすること。 ・ 自主防災会はそれぞれ単独で防災訓練等を定期的実施しており、これら事業と同種同内容にならないように工夫すること。 ・ 当ネットワークに対する地域の期待に応えるためには物理的制限もあり、こうした点に理解を得つつネットワークとしての独自性を出すこと。 ・ ネットワーク構成団体が、地域防災という視点を失わずに手段（防災訓練や防災事業の実施）が目的化することなく継続し続けること。

参加組織名	多摩センター地区連絡協議会
参加代表者 氏名	多摩センター地区連絡協議会 事務局長 村上 哲也
発表概要	多摩ニュータウンの中心となる多摩センター地域において、多摩センター地区連絡協議会がどのような活動をしているかを紹介するとともに、昨年12月に発足した災害時相互応援協定の概要、仕組み、消防署との合同訓練の現状と、今後の防災体制への取り組みについて発表。

活動概要

活動プロジェクト名称	
多摩センター地区連絡協議会	
活動対象地域	
東京都多摩市落合及び鶴牧地区（多摩センター駅前地区）	
活動の開始時期	
西暦 2004年 4月 1日	
活動団体名	
名称	多摩センター地区連絡協議会
フリガナ	タマセンターチクレンラクキョウギカイ
活動団体設立時期	
西暦 2004年 4月 1日	
活動の趣旨・目的	
多摩センター地区連絡協議会は、多摩センター地区に立地する企業、団体によって運営される任意団体です。地域の繁栄及び発展のための事業を行うとともに、会員相互間の親睦を図ることを目的とする。	
最近の具体的な活動内容（活動記録）	
<p>平成18年度活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会員相互の情報交換、連絡等の実施（毎月1回） 2. 会員を対象とした講演会、研修会の実施（年1回程度） 3. センターランドツリー事業の実施（多摩センターイルミネーションのシンボルツリー設置事業 11月～12月） 4. 多摩センター地区で開催されるイベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ ガーデンシティ 多摩センターこどもまつり 2006（5月） ・ 多摩センターストリートパフォーマンス事業（通年） ・ 長野県富士見町地域交流事業（6月） ※多摩市との共催 	

<ul style="list-style-type: none"> ・ フラワーミュージックライブ (9 月) ・ 多摩よこやまの道ウォーキングフェスティバル (春・秋) ※国士舘大学との共催 ・ ハロウィン in 多摩センター2006 (10 月) <p>5. 多摩センター地区駐車場問題懇談会の運営 (随時)</p> <p>6. 安全、安心、清潔な街づくり事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯カメラ設置 (11 月) ・ 美化推進活動 (随時) ・ 防犯活動 (随時) <p>7. 「多摩センター地区における災害活動に関する相互応援協定」に基づく防災訓練・啓発活動等の実施 (春、秋)</p> <p>8. その他</p>
--

活動成果
<ul style="list-style-type: none"> ・ 加入会員数 26 社 (H19/7 現在) ・ 多摩センター活性化事業における平成 18 年度集客数は 3,376.9 千人
課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済情勢に伴う、会費、負担金、協賛金等の負担関係 ・ 各種イベント、行事における会員各社の協力人員の確保 ・ 会員企業の業種混在 (商業、事務所等) に伴い、取組意識の差による盛り上がり不足。 ・ 経験不足の会員が多く、核となる人材 (会員) の不在

参加組織名	京都駅周辺防災ネットワーク協議会
参加代表者 氏名	高浦 敬之
発表概要	発足後 2 年間の活動内容の紹介

活動概要

活動プロジェクト名称	
京都駅周辺防災ネットワーク協議会	
活動対象地域	
京都駅周辺	
活動の開始時期	
西暦 2005 年 7 月 14 日	
活動団体名	
名称	京都駅周辺防災ネットワーク協議会
フリガナ	キョウトエキシュウヘンボウサイネットワークキョウギカイ
活動団体設立時期	
西暦 2005 年 7 月 4 日	
活動の趣旨・目的	
<p>公共交通機関、宿泊施設、物品販売店舗や地下街などの集客施設が地下街、地下鉄コンコース、駅ビル等の各接点において開口部が設けられ、地下においては、一つの地下都市空間が、地上においても南北自由通路を介して地上の1つの防火対象物のようになっている。個々のビル、地下街、駅舎においては個別の消防計画による災害対応体制がとられるが、事業所間の連携体制が無いところから、ターミナル周辺の接続されているビル等全体に被害が及ぶこととなる。</p> <p>このようなことに対応するために活動を展開している。</p>	
最近の具体的な活動内容（活動記録）	
<p>17.7 設立総会</p> <p>17.8 実務担当者研修会 防災ネットワークマニュアル、連絡訓練、地下浸水対策 爆破予告の対応</p> <p>17.9 第1回災害連絡訓練</p> <p>17.11 テロ対策研修会</p> <p>18.3 災害時の防火シャッター閉鎖研修会</p>	

19.7 京大防災研究所 視察研修
活動成果
17.11 鉄道関連施設連続放火事件の警戒通知 18.3 路上生活者による放火事案の発生通知、警戒促進 18.3 会員事業所の火災発生連絡
課題
会員事業所の拡大 地下浸水防止の研修会 連絡体制のハード面の整備

参加組織名	滋賀県立彦根工業高等学校
参加代表者 氏名	小椋 庄次
発表概要	<p>3年生で履修する科目「課題研究」の中に「耐震調査班」を設け、古い木造住宅が密集する彦根市河原町に出かけ簡易耐震診断を行う。</p> <p>滋賀県立大学環境科学部環境計画学科、滋賀県建築士会彦根支部ともタイアップして行うため、専門家からの直接の意見や指導が受けられ、学習の深化を図るとともに生徒が自分の将来の職能について考える機会ともなる。また自治会や地域住民の協力のもとにすすめ防災意識向上に役立てる。</p>

活動概要（詳細原稿）

活動プロジェクト名称	
滋賀県立彦根工業高等学校	
活動対象地域	
滋賀県彦根市河原町	
活動の開始時期	
西暦2006年 4月 日	
活動団体名	
名称	彦根工業高校耐震調査班
フリガナ	ヒコネコウギョウコウコウタイシンチョウサハン
活動団体設立時期（おおむねの年月日でも可）	
西暦2006年 4月 日	
活動の趣旨・目的（200～300字程度）	
<p>生徒達が学校で学ぶ専門の学習や技術を生かし、実際に人々が住んでいる町家の耐震診断を行うことにより、生徒の学習の意欲を喚起し、学習成果の深化を図る。また、実社会体験を積むことにより、社会性や人間的な資質向上をねらいとする。さらに家人や地域住人とのコミュニケーションを通し、社会人としての人間関係力が磨かれ、地域の防災意識の向上にも貢献する。</p>	
最近の具体的な活動内容（活動記録）（200～300字程度）	

今年度は対象地域で現代構法の木造住宅に的を絞り、耐震診断活動を行っている。高校生による簡易耐震診断から専門の診断士による精密診断にバトンタッチし、さらに耐震補強と引き継ぎ、地震に強いまちづくりに寄与したいと考えている。

活動成果

実際に人々が住んでいる町家の耐震診断を行うことにより、生徒の学習意欲が喚起され、学習成果の深化が見られる。また家人や地域住人とのコミュニケーションを通し、社会人として人間関係力が磨かれ、地域の防災意識の向上にも貢献するボランティア活動となっている。

課題

対象地域は旧城下町の一角に位置し、今でも古い民家が数多く残っている。昨年度実施した6軒の診断宅はいずれも江戸期から昭和初期までの伝統構法の民家ばかりであった。診断結果は一般診断法（現代構法が主な対象の診断方法）を適用するといずれも「倒壊する可能性が高い」と判定された。伝統構法の建物に現代構法が主な対象の診断方法を適用すると、伝統構法では極めて低い性能値になり、伝統構法は地震に弱いという誤った認識を広めることになりかねない。街区の耐震性を考えるとなおさらである。

伝統構法と現代構法では、構造の組み立ても、地震に備える仕組みも対照的に異なることが分かってきた。今後の課題として、伝統構法の耐震性能を正しく評価する1つの方法として限界耐力計算法にチャレンジしたいと考えている。

参加組織名	関西木造住文化研究会（略称 ^カ ^ー ^ス KARTH） Kansai Association for the Research in Traditional Housings
参加代表者氏名	田村 佳英
発表概要	当会は、過去9年間、各地の伝統技能者、建築・防災研究者、設計者、施工者等との協働研究と地域住民や行政の支援を受け、京町家をモデルに「地域固有の木造伝統文化を活かした防火・耐震性向上の実験を伴う研究開発」と普及活動に取り組んできた。今回は、各地の膨大な伝統木造住宅の地震・火災に強い住まい・まちづくりに今までの研究成果と新潟被災地での住宅修復支援成果を活かすために取り組んでいる活動概要を報告する。

活動概要

活動プロジェクト名称	
関西木造住文化研究会（略称 ^カ ^ー ^ス KARTH） Kansai Association for the Research in Traditional Housings	
活動対象地域	
京都を中心とした全国各地	
活動の開始時期	
西暦 1998年 12月 1日	
活動団体名	
名称	関西木造住文化研究会（略称 ^カ ^ー ^ス KARTH） Kansai Association for the Research in Traditional Housings
フリガナ	カンサイモクゾウジュウブンカケンキュウカイ（リャクショウカース）
活動団体設立時期（おおむねの年月日でも可）	
西暦 1998年 12月 1日	
活動の趣旨・目的	
各地で近い将来大地震発生が危惧される中で、各地の膨大な既存伝統木造住宅や歴史的町並みを地震・火災から守り抜いていくために、京町家をモデルとした防火・耐震研究開発を行い、その研究成果や地震被災調査の成果を各地に適用するための小冊子を整備する。かつ、地震被災地を含む各地のグループ・団体等と連携・協働して、「地域固有の木造伝統文化を活かした防火・耐震改修」及び、「被災時の住宅修復技術情報」の普及・啓蒙活動に取り組む。さらに、被災時の減災及び「ひと・暮らし・地域固有の木造伝統文化を大切に守り活かした修復、地域復興を迅速に進めるための建築支援情報ネットワーク」構築に向けた啓蒙活動に取り組む。	

<p>最近の具体的な活動内容</p>
<p>①既存伝統木造住宅の防火・耐震改修指針の整備・普及</p> <p>木造伝統文化や歴史的町並みを活かした地震・火災に強い住まいづくりの研究開発成果をふまえて、京町家をモデルとした建築実務者向けの防火改修設計・施工マニュアル技術解説書、住まい手向け防火・耐震改修手引きを作成した。かつ、市民・建築実務者向けのセミナー・講習会の開催（京都、金沢）や、防火・耐震改修モデル住宅の公開等を通して、地域固有の文化を活かした既存伝統木造住宅による防災まちづくりの普及に取り組む。</p> <p>②地震被災後の伝統木造住宅の修復支援及び修復技術情報の整備</p> <p>新潟被災地での修復支援と修復事例調査を通して、被災住宅修復指針作成に向けた活動に取り組む。</p>
<p>活動成果</p>
<p>1. 再生町家の部材実験により、伝統木造建築で高度な耐震・防火性能を達成できることの検証：江戸期の再生町家の設計・施工、耐震・防火性能実験〔2000年。日本初〕により、京町家の伝統的工法で建築基準法等を遥かに超える耐震・防火性能を達成できることを検証し、その後の国レベルで伝統木造の性能が見直されるきっかけを作る。</p> <p>2. 京町家の外壁・軒裏等の建築基準法令適合仕様の研究開発：法令に合わないとされてきた伝統仕様の外壁・軒裏の防火性能を実験で解明した。同成果は2004年国土交通省告示に採用され、寺社も含め、土壁や化粧軒裏の伝統建築を市街地で新築・再生できるようになった。</p> <p>3. 既存伝統木造住宅の防災改修マニュアルの整備：豊富な実験・調査をもとに、京町家をモデルとした既存伝統木造住宅の保全・再生のための耐震・防火改修マニュアルを作成。（住まい手向け防火・耐震改修手引き、建築実務者向け防火改修設計・施工マニュアル技術解説書）</p> <p>4. 新潟県中越地震被災地での住宅修復技術の普及活動と修復調査報告書の作成</p>
<p>課題</p>
<p>1. 既存伝統木造住宅の地域特性を活かした、①耐震・防火研究の促進及び②住まい手向け・建築実務者向けの耐震・防火改修指針の整備・普及</p> <p>2. 各地での耐震・防火改修促進の障害となっている各種課題解決に向けた産官学協働研究</p> <p>3. 既存伝統木造住宅の地震被災後の修復技術情報の全国レベルでの整備・普及、</p> <p>4. 非常時の減災及び、ひと・暮らし・地域固有の木造伝統住文化等を大切に守り活かした修復、地域復興を迅速に進めるための「建築支援情報ネットワーク」の構築</p>

参加組織名	高山市上三之町町並保存会
参加代表者 氏名	大野 二郎
発表概要	<p>高山市三町伝統的建造物群保存地区内の防災に対する地元町並保存会の取り組みについて</p> <p>①罹災の歴史</p> <p>②防災機器の整備及び取り扱い 可搬ポンプ、消火器、50m/m 消火栓、火災報知</p> <p>③町並保存会 消防隊 活動状況 発見→初期消火まで</p> <p>④地域防災 地区全体～防火帯、土蔵の修理</p> <p>⑤今後の防災に対する取り組み……</p>
参加組織名	高山市上三之町町並保存会
参加代表者 氏名	大野 二郎
発表概要	<p>高山市三町伝統的建造物群保存地区内の防災に対する地元町並保存会の取り組みについて</p> <p>①罹災の歴史</p> <p>②防災機器の整備及び取り扱い 可搬ポンプ、消火器、50m/m 消火栓、火災報知</p> <p>③町並保存会 消防隊 活動状況 発見→初期消火まで</p> <p>④地域防災 地区全体～防火帯、土蔵の修理</p> <p>⑤今後の防災に対する取り組み……</p>
活動プロジェクト名称（活動団体名と同じでも可）	
高山市上三之町町並保存会	
活動対象地域	
今上保存地区 並びに高山市三町伝建保存地区内	
活動の開始時期（おおむねの年月日でも可）	
西暦 1980 年 3 月 日	
活動団体名	
名称	高山市上三之町町並保存会
フリガナ	タカヤマシカミサンノマチマチナミホゾンカイ
活動団体設立時期（おおむねの年月日でも可）	
西暦 1973 年 4 月 1 日	
活動の趣旨・目的	

<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の後期から明治中期にかけて建てられた、伝統的様式の建物が連なるこの町並を維持しながら歴史的にも価値の高い美しい町並環境を守り、後世に伝えて行く為に色々な日々の生活を通して特に防災に関し、皆さんの協力のもと取り組んでいます。 ・世代の変化は現代の時代を反映し、高齢者も多くなって来ていますが、観光地としても、一応各戸経済的に成り立っている事もあり、中年層も多く、この地域に住んでいる為、自分の家の事として普段から防火を始め他の防災に対しても、色々な面から関心を持っています。
最近の具体的な活動内容（活動記録）
<p>平成8年に地区内の酒造所にて出火の際には、会員多数がかけつけ、可搬ポンプによる初期消火に努めた。</p> <p>又、その後、地区内及び隣の町内で火災がありこの2件共、可搬ポンプ及50m/m消化栓にて消火した。</p> <p>各戸に、グループモニターとしての自動火災報知設備が設置されてからは、年に2~3件の（特に台所に於いて）火災検知があり、グループ内（6~7戸）の人達が、査動家屋へかけつけている。</p>
活動成果
<ul style="list-style-type: none"> ・火災時の初期消火に、会員が自衛消防隊の一員として参加、又年に1~2回の消火訓練を行う。 ・防火用機器の整備、グループ自火報の点検（3年毎）小型消火器の薬剤替え等、常に機器類の整備を行う。
課題
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のみの家、又昼間の店舗としての使用のみで、住んでいない家も多少有り、自火報作動時の取組みについて心配 ・今後若い人が住んでこの町を守っていく為の取組み

参加組織名	清水寺警備団
参加代表者 氏名	大西 真興
発表概要	同団の設立の原因と経過。 現在の活動状況。団の特性など。

活動概要（詳細原稿）

活動プロジェクト名称（活動団体名と同じでも可）	
清水寺警備団	
活動対象地域	
清水寺境内及び隣接町内	
活動の開始時期（おおむねの年月日でも可）	
西暦	1950 年 月 日
活動団体名	
名称	清水寺警備団
フリガナ	キヨミズデラケイビダン
活動団体設立時期（おおむねの年月日でも可）	
西暦	1943 年 月 日
活動の趣旨・目的	
<p>長い歴史を持ち、貴重な文化財を多く持つ清水寺を火災から守る目的で設立されたが、近年は清水寺に限らず、隣接町内の防火等にも、活動を広げている。それは、一度火災が発生すると気候条件等により、災害の規模を限定できないからである。</p> <p>年間を通じ、多数の観光客が集まる地域であるため、避難誘導や緊急車を現場にスムーズに誘導する事。熱中症患者への対応等、守備範囲を広げている。</p>	
最近の具体的な活動内容（活動記録）	
<p>毎日の清水寺境内の巡回、年二回の消防訓練、年末には夜 10 時より朝 5 時までの不寝番。不審火事件が起こった折には、交替で徹夜の警戒を行った。又毎日防火を呼びかける、マイク放送も行っている。</p>	
活動成果	
<p>年二回の訓練や、消防訓練大会への参加により、消防設備の取り扱い技術の向上、防火防災意識の高まり、後継の若者へのこの意識・技術の伝承がみられる。</p>	
課題	
<p>次世代に防火防災の重要性、本団の活動の意義などの継承。</p>	